

事業の成果

[1] 子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業

●チャイルドライン事業

基本的に毎週月曜日（福井）と第 1 第 3 木曜日（奥越）に 16 時～21 時まで開設しました。総通話件数は 2,729 件（無言含む）、受け手はのべ 224 名でした。

●みんなのあそび事業

子ども先生@学校プロジェクト「あべこべ学校」では子どもが先生に、大人が生徒になって、お互いに伝えることの難しさ、学ぶことの楽しさを体験して貰いました。自然体験活動では指導員研修や親子遠足など大人も森を体験しました。

●子どもフェスティバル事業

駅前ハピリン広場ハピテラスにおいて 10 月 23 日にふくいうららんキッズ 2016 を実施しました。ぼくたちのお店、子どもフリマでは商品を買ってもらうための様々な工夫が見られ、みんな大きな声でお客さん呼び込んでいました。ライブ・パフォーマンスでは歌・ジャグリング・ダンスなどがあり、観衆の大きな拍手を受けていました。

●児童クラブ事業

木田児童クラブ・第 2 木田児童クラブの運営委員会の委託を受け、2 つの児童クラブの運営実務をサポートしました。昨年は福井市で初めて児童館と児童クラブ、計 3 館合同での入会審査を実施しました。また職員の募集や面接、研修の企画と実施、子どもの遊び講師依頼、など管理業務の一部をサポートしました

[2] 子どもと文化に関する交流、サポート及び人材育成事業

●表現やコミュニケーションを伝える事業（梅田演劇工房）

ドラマ・エデュケーションを通じて子どもたちに表現活動の楽しさを体験してもらい、心をつたえるということを学んでもらう活動です。演劇キッズでは大きな舞台作り、ごっこランドでは身近なものを表現することを体験しています。適応指導教室や教職員研修の講師として、コミュニケーション教育も行っています。

●大人が学び合う講座事業

前年度の「子どもの貧困」から引き続き「虐待」をテーマに 3 回の講座を実施しました。被虐待児の保護や心のケアに携わる医師・児童養護施設スタッフ、母子保健の最先端で活動する保健師など実際に現場で活躍してる方をお呼びして私たちにできることを考えました。

[3] 文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び連携事業

- 県内小学校・幼稚園・社協・その他子育て関係団体に舞台や人形劇などを紹介しました。夏休みに福井市児童クラブ連絡協議会との共催で人形劇「ピンクのドラゴン」を上演し、多くの子どもたちが生の舞台を鑑賞しました。

[4] 出版及び広報事業

- 広報誌「こども Channel」を年間 3 回、計 7500 部発行しました。特集「子どものチ・カ・ラ」は去年から継続しているテーマです。福井県内の子ども関連団体、教育機関、公共施設に配置し、賛助会員には個別配布しました。